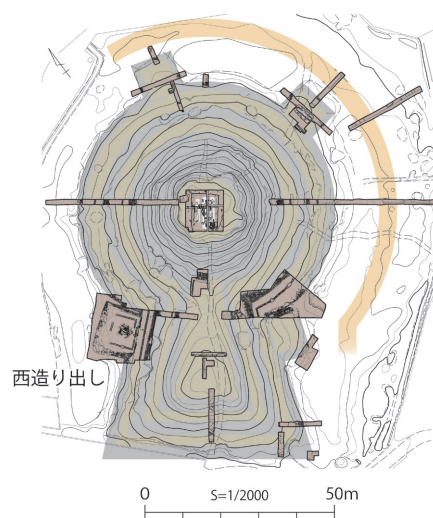


食物形土製品（あけび形土製品）

○あけび形土製品の出土状況

食物形土製品のひとつである「あけび形土製品」は、行者塚古墳に造り付けられた4つの造り出しのうち「西造り出し」から出土しています。高杯や壺などの土師器や、そのほかの食物形土製品と一緒に出土しており、これらの土製品は高杯や笊形土器の上に載せられていたものとみられます。また、同じ西造り出しのすぐ近くでは多数の家形埴輪も確認されています。

このような出土状況から、土師器や笊形土器、あけび形土製品をはじめとする食物形土製品は食物供献を表現したものと考えられています。



墳丘と西造り出しの位置



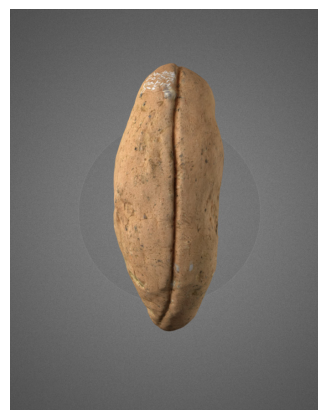
食物形土製品などの出土した様子



西造り出しから出土したあけび形土製品

○あけび形土製品の概要

行者塚古墳では計9点のあけび形土製品が出土しています。断面が円形で、両端が細く、やや湾曲する形状とその背面に縦方向に施された沈線（ちんせん）があけびの実に似ていることから、あけびの実を模して作られたものと考えられており、この名称で呼ばれています。行者塚古墳のものには、長さ3～4cmで背面の沈線がないもの、長さ4～5cmで背面に沈線をもつもの、長さ7～8cmで背面に沈線をもつものの大きく3つの大きさや形のものがあります。このように大小のものがみられるのは、実際に自然界でみられる実りの様子を模している可能性があります。



背面に施された沈線



あけびの実
(写真：Adobe Stock)

ここに注目！

あけび形土製品などの食物形土製品は、指先で粘土をこねて作る「手づくね」で作られています。このため、土製品のなかには粘土の継ぎ目や指の痕跡を見ることが出来るものがあります。ぜひ、いろいろな角度から観察してみてくださいね！